

# 宿命

2008(平成20)年10月11日鑑賞<テアトル梅田>

★★★



監督・脚本＝キム・ヘゴン／出演＝ソン・スンホン／クォン・サンウ／チソン（友情出演）  
／キム・インゴォン／アン・ネサン／ミン・ウンシク／パク・ハンビョル／パク・ヘスク／  
チョンウ／ホン・スヒョン／キム・ミンジュ（エスピーオー配給／2008年韓国映画／125分）

……韓流イケメンスターのソン・スンホンとクォン・サンウの共演（対決？）が話題だが、それ以上に2人のキャラに注目！ 男臭さを売りにするにはヤクザの抗争が最適だが、この映画のテーマは友情と裏切りそして宿命。「4人組」それぞれの運命や、男たちに翻弄される女たちの運命がストーリー展開の核だが、意外にヒネった結末に大注目！ もっとも、そんな決着にはきつと賛否両論が……。

## 2人のイケメン韓流スターの選択と決断は？

この映画でチョルジュン役を演ずるイケメン韓流スターのクォン・サンウは、『マルチュク青春通り』（04年）、『青春漫画～僕らの恋愛シナリオ～』（06年）、『美しき野獣』（06年）等によく知っていたが、もう1人のウミン役を演ずるソン・スンホンを私は映画では観たことがなかった。もっとも、兵役逃れが発覚したため、ドラマから降板させられたという彼のニュースはよく知っていた。そんなソン・スンホンにとって『宿命』は、2004年から2年間務めた兵役復帰後の第1作。

ウミンとチョルジュンは、タイトルどおり宿命のライバルとなるのだが、面白いのはそのキャラクター。2人とも裏社会で生きる、でき損ないの男であることは共通……？ しかし、ウミンはどこか哀愁を含んだやさしい魅力的な男ながら、この映画における持ち味は激しいアクション。それに対し、チョルジュンは妹のヒョスク（ホン・スヒョン）にはやさしいが、短気で気性が荒くわがまま。そのうえ部下たちに対してはメチャ厳しいから、ちょっとイヤな奴。

あえてこんな役柄設定としたのは、ソン・スンホンは兵役に就く前の『冬のソナ

タ』へと続く四季シリーズの第1弾『秋の童話』（00年）での甘いマスクの青春スターというイメージからの脱皮を図ったため。しかし、クォン・サンウは既に『美しき野獣』で荒々しさを前面に押し出したキャラを実践し好評だったのだから、あえて今回のような中途半端な悪役（？）に挑戦しなくてもよかったのでは？

## 馴染みの顔があと2人

組織のボスであるドゥマン役のミン・ウンシクとその右腕でいつも一歩退いたところに位置するクールな男ヨンファン役のチソンは、今回はじめてみる顔。しかし、4人組のリーダー役ガンソプ役のアン・ネサンは、『オアシス』（02年）、『マラソン』（05年）、『マルチュク青春通り』で私には馴染みの顔だし、ウミンと固い友情で結ばれているドワン役のキム・インゴンも、『マルチュク青春通り』『恋する神父』（04年）で私にはお馴染み。

## 冒頭のカジノ襲撃のアクションは絶品！

この映画は、ウミンとチョルジュン、そしてガンソプとドワンの4人組によるド派手なカジノ襲撃のシークエンスから始まる。この激しいアクションに彼ら4人は、すべてスタントなしで臨んだとのことだ。

ドゥマンのカジノの本丸に蓄えている金庫が襲われるのだから、その防衛のためには日本刀や銃が使われるのではと思うのだが、香港マフィアや日本ヤクザと違って韓国ヤクザの抗争には日本刀や銃は登場せず、ほとんどが肉弾戦に鉄パイプや木刀がブラスされるだけ。突入してきた4人組に反撃するドゥマンの部下たちの数は何十人にも膨れ上がったが、それを4人組が蹴散らしていくアクションは絶品。

## テーマは友情と裏切り、そして宿命

4人組のカジノ襲撃は結局失敗に終わったが、それはなぜ？ ドゥマンの前に引き出された4人のうち、先に捕えられひどい傷を負わされたのはドワン。そしてドゥマンは、いきなりガンソプのアキレス腱を切らせ、ウミンには事件の責任を負って警察に行くように指示したため、ウミンはそれに従うしかなかった。

ところが、チョルジュンに対しては、何とドゥマンから「ご苦労」の声が……。こりゃ一体ナニ？ さあ、ここから友情と裏切りそして宿命をテーマとした韓国ヤクザ

たちの人間ドラマがスタートすることに。

## 男の運命の変化は、女の運命も

ウミンが約2年間の服役で出所できたのは、どうもドゥマンの尽力があったようだ。しかし、2年間の男の運命の変化は、女の運命も大きく変えるもの。すなわち、ウミンの恋人だったウニョン（パク・ハンビョル）は今はドゥマンの愛人となり、バーの経営を任されていたが、さて彼女の心は？

また、ドワンはクスリに溺れ、今や廃人同様の変わり果てた姿に。そんなドワンに見切りをつけた元恋人のミジン（キム・ミンジュ）も、今はチョルジュンの経営するクラブのホステスに。ドワンは今でもミジンへの未練タラタラだが、さてミジンの心は？

## ガンソプの行方は？

他方、もともとはドゥマンと兄弟分であったガンソプの行方は？ 出所してきたウミンがさかんにガンソプの居所を捜しているのはなぜ？ ネットばれ覚悟でその理由を明かせば、カジノから強奪した金のうち大部分は返還させられたものの、その一部はガンソプが4人のために隠しているため。つまり、他の3人を裏切り、今はドゥマンの下でクラブの経営を任せられ多数の部下を従えているチョルジュンも、それを内緒にしていることが3人へのせめてもの償い？ もっともそれは、3人からの復讐を予防するための1つの手段かも……？

ガンソプはここ6カ月ほど行方不明らしいが、さて彼は今どこに……？ そもそも、ちゃんと生きているの？ それとも……？

## 次なる抗争のタネは？

裏社会に生きるヤクザたちは、生きていくための日々のしのぎが大変。一見派手にクラブやバーを経営していても、チョルジュンの様子を覗いていると、経営や資金繰りは大変そう。ケンカは強くても、あまり数字や経営に強そうもないチョルジュンがそれを1人で仕切っているのだから、彼はいつもイライラし、怒鳴っている。まあ、これでは先が思いやられるというものだ。そんな心配をしていると……。

ある日チョルジュンは、部下たちに襲わせて大ケガをさせたウミンの病室を、ドゥ

マンが見舞っているのを発見したから、気が動転したようだ。こんな姿をみていると、チョルジュンは見かけほど気が大きい男ではなく、ホントは小心者……？ 政治の世界でもヤクザの世界でも、抗争のタネは意外と人間の疑心暗鬼にある。それは、明智光秀が織田信長に謀反を起こしたのは、今後は羽柴秀吉が重宝され自分はそのまま疎んじられるのではないかという猜疑心を持ったことが原因だったことを見ればよくわかる。さあ、そんなドウマンの姿を目撃したチョルジュンが立てた次なる策略とは？

## 意外な結末に注目！

4人組をはじめとしてこれだけの人物が登場し、友情と裏切りをメインテーマとしたさまざまなストーリーが展開していくのだから、上映時間が2時間を要するのは仕方ないところ。中盤のストーリー展開はあなた自身の目でじっくり観ていただくこととし、注目は意外な結末。だって、この映画のタイトルは『宿命』だし、友情と対立のメインテーマの主演は当然ウミンとチョルジュン。したがって、私を含めた多くの観客は、最後の決着はウミンとチョルジュンの直接対決によってつけられるものと期待しているはずだ。現に、金を奪いウニョンとの逃避を一瞬夢見たウミンも、ガンソプを囮としてウミンをおびき出してその金を奪おうと画策するチョルジュンも、思い出の（因縁の？）あの場所での決着を約束し、それぞれの目的地に向かったが……。

『ブラザーフッド』（04年）、『誰にでも秘密がある』（04年）、『甘い人生』（05年）等で俳優として出演した後脚本を書き、この映画が監督2作目となるキム・ヘゴン監督は、意外にもそこに大胆なヒネリを入れているのでそれに注目！ 少しでもヒントを言えば、日本では「鳶に油揚げをさらわれる」ということわざがあるが、この映画の結末はそれに近いもの……？ さて、キム・ヘゴン監督のそんなヒネった結末とは？ そして、そんな決着のつけ方についてのあなたの賛否は？

2008(平成20)年10月14日記